

令和 4 年 6 月 17 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2021

課題番号：16K12209

研究課題名（和文）介護老人保健施設の多職種を対象にした倫理教育プログラムの開発と縦断的評価

研究課題名（英文）Development and longitudinal evaluation of an ethics education program for multiple professions in long-term care insurance facilities

研究代表者

藤野 あゆみ（FUJINO, AYUMI）

愛知県立大学・看護学部・准教授

研究者番号：00433227

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、1.介護保険施設で働く看護職の倫理問題に対する感受性を高め、倫理的問題を解決に導く倫理教育プログラムを開発すること、2.当該プログラムを実施し、その効果を縦断的に評価することである。第1段階では、介護保険施設における勤務経験のある看護職へのインタビューを実施し、第2段階では、全国の介護保険施設の看護職に対する質問紙調査を実施した。その結果、4因子20項目から成る介護保険施設の看護職の倫理的問題解決思考尺度が作成された。第3段階では、COVID-19の感染拡大により、教育プログラムを実施することが困難であったため、計画を変更して倫理教育プログラムで用いる教材を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で作成した介護保険施設の看護職の倫理的問題解決尺度は、これまで十分に明らかにされなかった介護保険施設の看護職がいかにして倫理的問題を解決するかという実態を数値化して把握することを可能にする。また、この尺度は、本研究で作成した教材を含め、介護保険施設の看護職を対象にした倫理教育プログラムの開発・実施等の介入研究において、その効果を検証するツールとして活用できると考える。

研究成果の概要（英文）：The objectives of this study were twofold. The first was to develop an ethics education program that would increase awareness in respect of ethical problems facing nurses working in long-term care insurance facilities in order to attempt to resolve these problems. Our second objective was to implement the ethics education program mentioned above and longitudinally evaluate its effectiveness. In the first phase of our study, interviews were conducted with nurses who had worked in long-term care insurance facilities. In the second phase, a questionnaire survey was administered to nurses working in long-term care insurance facilities nationwide. We developed the ethical problem-solving thinking scale for nurses in long-term care insurance facilities. The scale we developed consisted of four factors with 20 items. In the third phase of our study, educational materials were developed for use in an ethics education program.

研究分野：老年看護学

キーワード：介護保険施設 看護職 倫理的問題

## 1. 研究開始当初の背景

介護保険制度の開始後、身体拘束禁止の明文化や「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」の制定に伴い、介護老人保健施設の倫理的問題への関心が高まってきた。介護老人保健施設は医療機関とは異なる生活の場であり、医療倫理をそのまま用いることができず、高齢者の日常を倫理的側面から捉える Everyday Ethics (Kans et al, 1990) が着目された。介護老人保健施設をはじめとする高齢者施設の日常場面を Everyday Ethics の観点から捉えた研究では、高齢者の意思に関係なく、日中は車椅子で過ごす暗黙のルールや (Solum et al, 2008.) 日中の過ごし方を高齢者自身が決定しにくい状況等が報告され (渡邊ら, 2005, 中村ら, 2005)、介護老人保健施設には多様な倫理的問題が潜在する可能性が示唆された。

このような状況を見過ごさず、的確に捉えて対応するためには個々の場面に潜む倫理的問題を見出す道徳的感受性が欠かせないが (箕岡, 2010) 看護職は日常業務で体験する様々な問題を倫理上の問題と捉える視点が弱いと指摘されてきた (岡谷, 1999)。そのため、介護老人保健施設等の看護職に対する倫理教育プログラムを作成・実施し、その実施前後に感受性尺度等 (藤野ら, 2014) を測定することで、倫理教育プログラムが看護職の倫理的問題に対する感受性を高める可能性について報告した (藤野ら, 2017)。

しかし介護老人保健施設の倫理的問題と向き合うためには、看護職だけではなく、多職種との連携が必要である。介護老人保健施設に配置されている職種には、看護職や理学療法士等の医療職と介護福祉士をはじめとする福祉職があり、それぞれの職種の職能団体が倫理綱領を掲げている。各職種の倫理綱領を概観すると、表現等に相違がみられ、多職種の倫理的問題に対する考えや価値観が少し異なる可能性が示唆された。そこで、介護老人保健施設の多職種がより連携を深めて倫理的問題に取り組めるようにするために、多職種の倫理的問題に対する感受性を高める教育プログラムを作成・実施することで、介護老人保健施設が組織一体となって高齢者の尊厳を守る体制を整えることが肝要であると考えた。

## 2. 研究の目的

当初、本研究は、「1.介護老人保健施設で働く多職種の道徳的感受性を高め、多職種で倫理的問題に対する最善の選択肢を見出して実行する倫理教育プログラムを開発すること、2.当該プログラムを実施して効果を縦断的に評価すること」を目的としていた。

しかし、倫理的問題への感受性に関する文献検討を行う中で、倫理的問題に対する感受性を高めるだけでは、倫理的問題を解決に導くことが困難ではないかという新たな疑問を抱くようになった。また、介護保険施設で働く看護職の中でも、専門的な知識に基づいて実践している老人看護専門看護師や認知症看護認定看護師の語りを聞き、その実践を明らかにすることで、倫理的問題の解決により焦点を当てることができるのではないかと考えるようになった。そこで、研究目的を見直し、倫理的問題に対する感受性だけではなく、倫理的問題の解決に重点を置いた研究計画に修正した。その結果、本研究の目的を以下のように修正した。

修正後の本研究の目的は、「1.介護保険施設で働く看護職の倫理的問題に対する感受性を高め、かつ倫理的問題を解決へと導く倫理教育プログラムを開発すること、2.当該プログラムを実施して、その効果を縦断的に評価すること」とした。

## 3. 研究の方法

上記目的を達成するため、研究計画の第1段階では、介護保険施設の看護職を対象にしたインタビューを行い、第2段階では、全国の介護保険施設の看護職を対象にした質問紙調査を実施し、第3段階で介護保険施設の看護職を対象にした倫理教育プログラムを作成・実施することを計画した。

第1段階では、介護保険施設における勤務経験がある認知症看護認定看護師と老人看護専門看護師にインタビューを行った。次にインタビューの語りから介護保険施設の看護職の倫理的問題解決思考尺度の項目案を作成した。項目案の内容妥当性を検討するため、介護保険施設における勤務経験がある認知症看護認定看護師と老人看護専門看護師、介護保険施設における研究に取り組む研究者で構成された専門家会議を開催し、項目案を検討した。

第2段階の質問紙調査では、第1段階で作成した介護保険施設の看護職の倫理的問題解決思考尺度の項目案等をもとに質問紙を構成し、予備調査、本調査、再テスト調査を実施した。予備調査では、介護保険施設の看護職6名を対象に項目案の回答しやすさ等を検討した。本調査では、介護保険施設の看護職2,212名を対象に、基本属性、項目案、および介護老人福祉施設にお

ける認知症ケア指針(原ら,2012)(以下、認知症ケア指針と略す)等で構成した質問紙調査を実施した。

分析方法は、尺度開発の手順に従って項目分析、探索的因子分析、確認的因子分析、信頼性(内的整合性、安定性)の検討、妥当性(構成概念妥当性、併存的妥当性)の検討を行った。信頼性については、Cronbach 係数を算出した。妥当性については、構成概念妥当性の検討のために Amos を用いてモデルの適合度を算出した。併存的妥当性の検討のため、認知症ケア指針との相関係数を算出した。再テスト調査では、本調査の対象者のうち 252 名を対象に項目案を調査した。安定性の検討のため、本調査と再テスト調査の本尺度の得点について級内相関係数を算出した。

第 3 段階では、当初、介護保険施設の看護職対象の倫理教育プログラムの開発・実施を計画していたが、COVID-19 の感染拡大のために、倫理教育プログラムの実施が困難となった。そのため、第 3 段階の計画を倫理教育プログラムで用いる媒体の作成に修正した。

なお、第 1 段階および第 2 段階の研究計画については、所属大学の研究倫理審査委員会の審査および承認を得て実施した。

#### 4. 研究成果

第 1 段階では、介護保険施設における勤務経験がある認知症看護認定看護師 5 名、および老人看護専門看護師 3 名へのインタビューから介護保険施設の看護職の倫理的問題解決思考尺度の項目案を 209 項目作成し、専門家会議による検討を経て 60 項目に精選した。

第 2 段階では、予備調査を実施し、項目案 60 項目の文言を一部修正した。本調査では、571 名(回収率:25.8%)から回答が得られ、そのうち 513 件を有効回答(有効回答率:89.8%)とした。項目分析により項目案は、60 項目から 41 項目に絞り込まれた。41 項目について探索的因子分析を行った結果、4 因子が抽出された(累積寄与率 37.9%)。各因子の因子負荷量が 0.4 以上の各 5 項目の計 20 項目について確認的因子分析を行った結果、4 因子に収束された。因子間の相関係数は  $r=0.37 \sim 0.57$  ( $p < 0.05$ ) であった。第 1 因子は『療養生活における高齢者の個別性の尊重』、第 2 因子は『高齢者の意向に基づく治療と療養生活の場の決定』、第 3 因子は『高齢者の尊厳を守る工夫の思量』、第 4 因子は『リスクと行動抑制に対する問題意識』と命名した。

Cronbach 係数は、尺度の全体が 0.89、第 1 因子が 0.85、第 2 因子が 0.83、第 3 因子が 0.82、第 4 因子が 0.72 であり、内的整合性が確保された。妥当性については、本尺度のモデル適合度が  $GFI=0.89$ 、 $AGFI=0.86$ 、 $CFI=0.89$ 、 $RMSEA=0.07$  であり、4 因子 20 項目の構成概念妥当性が確認された。また、本尺度の全体および各因子の得点と、認知症ケア指針の全体および各領域の得点との相関係数を算出した結果、 $r=0.20 \sim 0.62$  ( $p < 0.01$ ) であり、併存妥当性が確認された。級内相関係数は、尺度の全体が 0.91、第 1 因子が 0.84、第 2 因子が 0.89、第 3 因子が 0.75、第 4 因子が 0.71 であり、安定性が確保された。

第 3 段階では、介護保険施設の看護職を対象にした倫理教育プログラムで用いる教材として、第 1 段階で得られたインタビューの語りを基に、模擬患者を用いたシミュレーション教育のシナリオ(阿部,2013)を作成した。シナリオは、第 1 段階のインタビューで語られた介護保険施設に入所する高齢者の暴言・暴力がみられるときの薬剤投与の場面を取り上げ、学習目標を設定し、シナリオデザイン、シナリオアウトライン、デブリーフィングガイドを作成した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 藤野あゆみ, 渡辺みどり	4. 巻 23
2. 論文標題 看護職の倫理的感受性に関する研究動向と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本看護福祉学会	6. 最初と最後の頁 93-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 藤野あゆみ, 渡辺みどり, 金子さゆり
2. 発表標題 介護保険施設の看護職の倫理的問題解決思考尺度の信頼性・妥当性の検証
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	百瀬 由美子 (MOMOSE YUMIKO) (20262735)	愛知県立大学・看護学部・教授  (23901)	
研究分担者	天木 伸子 (AMAKI NOBUKO) (40582581)	愛知県立大学・看護学部・講師  (23901)	
研究分担者	渡辺 みどり (WATANABE MIDORI) (60293479)	長野県看護大学・看護学部・教授  (23601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------